

SHINWA REPORT

第10期(2024年3月期)報告書
2023.4.1—2024.3.31

株主の皆様へ

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
第10期(2024年3月期)の業績について、ご報告させていただきます。

信和株式会社

〒503-0311 岐阜県海津市平田町仏師川字村中30番7 TEL:0584-66-4436

「いのちを守り、未来を支える」モノづくりへ

株主・投資家の皆様におかれましては、当社の成長に変わらぬご支援・ご期待をいただき、心より御礼申し上げます。

当社は1977年に仮設資材のメーカーとして創業し、2003年には物流機器事業へ進出いたしました。40年以上にわたり、金属加工の経験と技術を積み重ね、高品質な製品づくりを通じて、街やインフラの発展、あるいは維持・修繕の為になくてはならないリソースを社会に供給し続けているものと自負しております。

当期における国内景気は緩やかな回復基調が見られた一方で、建設資材価格の高止まりや建設労働者不足による工事延期など、先行きに対する不透明感が強まった影響により、仮設資材の調達トレンドには大きな変化が生じました。

このような厳しい市場環境の中、販売シェア維持のための営業戦略実施や、コストの徹底抑制に取り組んでまいりました。また、社会インフラの老朽化対策需要を見据え、システム吊り足

場「ラピッドフロア」の市場投入開始や、事業戦略見直しの一環として「ヤグミグループ」の子会社化など、次の成長に向けた準備を着実に進めてまいりました。

今後も、当社にとって厳しい状況が継続するものと見込まれますが、今般のヤグミグループ子会社化により獲得した「製造から施工まで」の強固なバリューチェーンを活かし、現場の意見を反映した新機材・新サービスの開発や、相互のリソースを活用した事業範囲の拡大などのシナジーを発揮してまいります。

当社のパーパスである「いのちを守り、未来を支える」理念をグループで共有し、社会への価値提供を通じて成長するとともに、企業価値を高めてまいります。

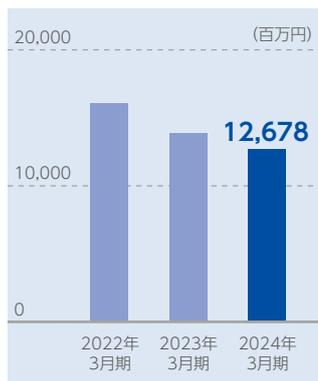
何卒一層のご愛顧、ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役 社長 則武 栗夫

財務ハイライト第10期(2024年3月期)

詳細な財務情報は、当社のIRウェブサイトをご覧ください。 <http://ir.shinwa-jp.com>

売上収益



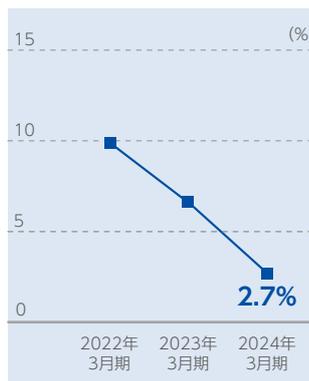
親会社の所有者に帰属する当期利益



親会社所有者帰属持分比率



ROE



事業の内容について

仮設資材部門

建設現場などで用いられる仮設足場は、主に低層～中層用で使用されるシステム足場※(くさび緊結式足場)と中層～高層用で使用されるシステム足場(次世代足場)並びに、主に高層用や大規模施設等で使用される枠組足場の3種類に大別されますが、当事業においては、主にシステム足場(くさび緊結式足場・次世代足場)の製造・販売を行っております。門型の建枠にジャッキベース・

交差筋かい・踏板等の基本部材を組み合わせ、積み上げていく枠組足場と比べ、システム足場は各製品(支柱・手すり・踏板等)が軽量かつシンプルな形状となっております。

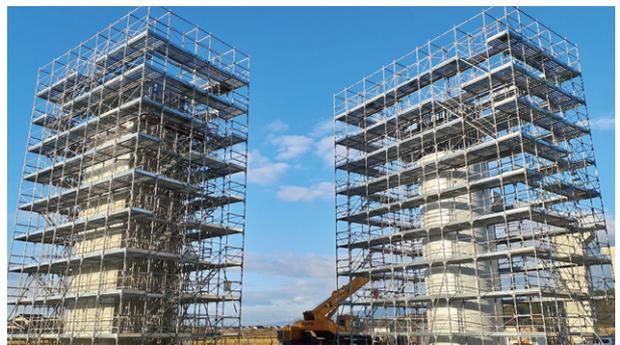
当社が提供するシステム足場は、出荷金額ベースで市場シェア第1位となっております(当社調べ)。

※ システム足場とは、「くさび緊結式足場」と「次世代足場」の総称です。

次世代足場について

次世代足場は、従来の枠組足場における寸法規格に準拠して作られている一方、くさび緊結式足場と同様に組み立て式となっております。また、くさび緊結式足場と比較して、手すりの抜け止め機能や支柱本体のロック機能が備わっており、高所作業における安全性・安定性を高めた製品であります。

当社の「SPS(サイレントパワーシステム)」は、国内最高水準の作業性と「静音性」を兼ね備えています。



当社取扱製品及び主力製品

システム足場	足場の種類	くさび緊結式足場 「シンワキャッチャー」	次世代足場 「SPS (サイレントパワーシステム)」 「NDS (ダーウィン)」	
	主な用途	低層～中層向け (戸建住宅・マンション等)	中層～高層向け (大型マンション・ビル・大規模施設等)	
	当社の製品	 シンワキャッチャー	 SPS	 NDS

物流機器部門

物流機器部門では、主に工場、倉庫、建設現場における物品の保管・搬送等に使用される物流機器の製造・販売を行っております。

用途に合わせて様々な製品を製造しており、自動車部品、液晶パネル用ガラス等の保管・搬送用パレット及びスチールラックといった物品保管用の物流機器を、顧客の要望に基づいて企画設計・製造し、顧客のニーズに最も適した製品を提供できるよう努めております。



第10期(2024年3月期)の概況

仮設資材部門

仮設資材部門は、主に戸建住宅などの低層から中層をターゲットにした「くさび緊結式足場」と、中層から高層の大型施設や公共工事をターゲットにした「次世代足場」の2つの製品群を展開しております。

当連結会計年度においては、2023年3月期第3四半期から続く資材価格及び製品価格の高止まり、建設従事者の人件費上昇などを背景に、仮設資材をレンタルで調達する流れが根強く続いております。また、建設従事者の人手不足などにより工事着工が延期するなどの状況も生じております。引き続き仮設資材には一定の需要はあるものの、これらの理由により、主にくさび緊結式足場の顧客において資材調達を先送りにするケースが見られております。また一時的な要因として、2023年3月期には価格改定前の集中的な購買の動きがあったことから、前期比で販売量が減少しました。これらの結果、仮設資材部門の売上収益は8,981百万円(前期比13.6%減)となりました。

仮設資材部門の売上収益



POINT

仮設資材は一定の需要はあるものの、建設従事者の人手不足などによる工事着工の延期などによりレンタルでの調達や、資材調達の先送りが見られた

2023年3月期においては、製品価格改定前の集中的な購買の動きがあったことから、前期比で販売量が減少

物流機器部門

物流機器部門は、建設業界のみならず、自動車や物流倉庫など幅広い産業に向けて、オーダーメイドの製品提供を通じ、運搬・収納の効率化や安全性の向上を実現するソリューションを提供しております。

当連結会計年度においては、各種産業における生産活動の活発化が見られたことを背景に、大型物流倉庫などリピート案件を中心に安定した受注は見られましたが、需要変動に伴う自動車部品用パレットの受注量減少や、電気機器向けをはじめとするスポット案件が来期以降にずれ込んでおります。これらの結果、物流機器部門の売上収益は3,697百万円(前期比15.3%減)となりました。

物流機器部門の売上収益



POINT

大型物流倉庫などリピート案件を中心に安定した受注は見受けられた

需要変動に伴う自動車部品用パレットの受注量減少

中期経営計画(2025年3月期~2029年3月期)について

当社は、「いのちを守り、未来を支える」理念のもと、様々な社会課題の解決に資する製品・サービスの提供を通じ、成長を続けていきます。

中期経営計画における目標

1 売上収益目標

200億円
(2029年3月期)

2 ROE目標

8.5%
(2029年3月期)

3 配当性向目標

40%以上

各部門の目標

仮設資材部門

2029年3月期 売上収益目標

15,640百万円



物流機器部門

2029年3月期 売上収益目標

4,360百万円



注力分野について

① 橋梁向けシステム吊り足場

- 社会インフラの中でも道路橋の老朽度は高く、維持・メンテナンスは喫緊の課題となっている。
- 安全性・効率性の高いシステム吊り足場の速やかな普及と拡販に注力する。

仮設関連市場規模

橋梁補修向け

350億円
(当社想定)

② 仮設施工サービス

- 建設就業者数は減少傾向であり、高齢化も進んでいる。
- 仮設施工企業であるヤグミグループの子会社化により「製造から施工まで」の両事業で新たな仮設建設関連サービスを創出する。

軽仮設工事市場規模

4,636億円

東海三県規模

470億円

③ 物流事業の領域拡大と強化



既存領域の強化

- 売上基盤のさらなる強化
- レンタル事業の拡大
- 利便性の追求



新領域への進出

- 省人化分野
- 海外展開
- 未経験業界への積極的な挑戦

ESGへの取り組みについて

当社が持続的かつ安定的に成長するためには、経営においてもESGの観点が必要と考えており、環境・社会・企業統治、それぞれの課題に取り組んでまいります。



[中期経営計画 説明資料はこちら](#)



持続可能な社会への貢献

- 環境負荷軽減型製品の開発、カーボンニュートラル業界への効率的な製品供給
- CO₂排出削減を目指した取り組み（車両の電動化、排出モニタリング）
- 廃棄物の削減推進（歩留まり改善、ペーパーレス化）



働き方やダイバーシティ推進

- 社会課題解決を目的とした事業推進
- 人材の育成強化
- 職場環境の整備
- ダイバーシティとインクルージョンの向上
- 地域活性化支援



透明性を意識した健全な企業経営

- 実効性の高いガバナンスの実践（社外役員の登用等）
- 投資家との建設的な対話（IRの充実）

TOPICS

株式会社ヤグミを子会社化

当社は、2024年4月に東海地方で最大規模、全国でも有数の仮設施工企業であるヤグミグループを子会社化いたしました。同グループは、仮設施工のみならず周辺ビジネスの取り込み・開発を通じて事業成長を図る企業です。

当社は、メーカーとして『いのちを守り、未来を支える』をパーパスに掲げており、ユーザーとして『建設時の安全を守るパートナー、“セーフワーカー”』という矜持を持つヤグミグループの参画により、高い親和性を基盤とした業容拡大や新分野への参入が期待されています。今回の子会社化により、グループ内の経営資源の共有と事業連携の強化を通じて相互にシナジーを発揮し、新たな価値創造と企業価値の向上を目指します。

株主還元の充実

株主優待制度について

株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式の魅力を一層高めることで中長期的に当社株式を保有いただける株主様の増加を目的として、株主優待制度を実施しております。

株主優待制度「信和プレミアム優待倶楽部」の特長

- 毎年9月末現在の株主名簿に記載された、当社株主10単位(1,000株)以上保有の株主を対象に株主優待ポイントを進呈いたします。
- ポイント数に応じて、特設ウェブサイトに掲載されている5,000種類以上の商品からお好みの商品をお選びいただけます。
- 長期保有特典として、2年目*以降は初年度のポイントを1.1倍したポイント数を進呈いたします。

※9月末日の株主名簿に同一株主番号で連続2回以上記載されること。

(例) 優待商品



優待ポイント表(1ポイント≒1円)

保有株式数	初年度の優待ポイント	長期保有特典
1,000株～1,499株	5,000ポイント	5,500ポイント
1,500株～1,999株	20,000ポイント	22,000ポイント
2,000株以上	25,000ポイント	27,500ポイント

優待ポイントの繰越はできませんので、ご注意ください。

詳細につきましては、株主優待サイト(<https://shinwa-jp.premium-yutaiclub.jp>)をご参照ください。



配当方針について

株主の皆様への利益還元は、経営上重要な課題の一つとして位置づけており、配当性向40%以上を目標に経営成績に応じた還元を実施しております。第10期においては、中間および期末配当としてそれぞれ1株あたり16円とし、当期の年間配当金は1株あたり32円となりました。

連結財務諸表(国際会計基準)

連結財政状態計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
(資産の部)		
流動資産	7,962	7,291
現金及び現金同等物	2,063	1,843
営業債権及びその他の債権	2,450	2,225
棚卸資産	3,406	3,182
その他の流動資産	41	39
非流動資産	13,332	13,384
有形固定資産	2,403	2,488
使用権資産	240	204
のれん	9,221	9,221
無形資産	1,387	1,352
その他の金融資産	68	105
その他の非流動資産	11	12
資産合計	21,294	20,675

連結損益計算書

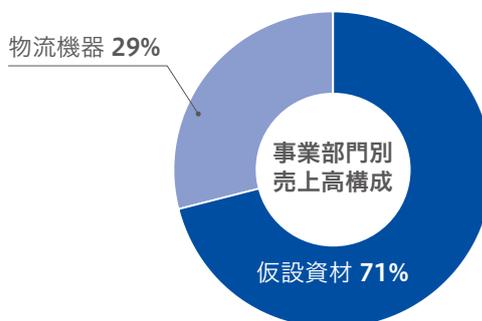
(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2022年4月1日～ 2023年3月31日)	当連結会計年度 (2023年4月1日～ 2024年3月31日)
売上収益	14,757	12,678
売上原価	△11,257	△9,880
売上総利益	3,499	2,797
販売費及び一般管理費	△1,959	△2,078
その他の収益	26	25
その他の費用	△64	△44
営業利益	1,501	700
金融収益	0	1
金融費用	△67	△48
税引前利益	1,434	652
法人所得税費用	△448	△241
当期利益	985	411
当期利益の帰属		
親会社の所有者	1,007	409
非支配持分	△21	1
当期利益	985	411

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
(負債及び資本の部)		
流動負債	5,241	2,943
営業債務及びその他の債務	664	1,045
借入金	4,242	1,490
未払法人所得税	122	59
その他の金融負債	89	69
その他の流動負債	122	278
非流動負債	501	2,413
借入金	-	1,963
引当金	45	44
その他の金融負債	170	143
繰延税金負債	281	258
その他の非流動負債	3	3
負債合計	5,742	5,357
(資本の部)		
親会社の所有者に帰属する持分	15,545	15,310
資本金	153	153
資本剰余金	6,918	6,918
利益剰余金	8,621	8,363
自己株式	△151	△147
その他の資本の構成要素	3	22
非支配持分	6	8
資本合計	15,552	15,318
負債及び資本合計	21,294	20,675

事業部門別売上高構成 (2024年3月期)



第10期のIR活動について

第10期のIR活動では、当社の決算情報などわかりやすくお伝えするため、決算説明会動画の書き起こしの掲載や名古屋証券取引所主催のIRフェアへの出展を行いました。また、利益還元の一環として、中間配当制度や株主優待制度を新設いたしました。今後も株主の皆様の意見を傾聴しつつ、IRの充実を図ってまいります。



YouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCIPSIHU5CWi8-YGg4dRIQjg/>
featured



X

<https://x.com/shinwajp/>



会社概要 (2024年3月31日現在)

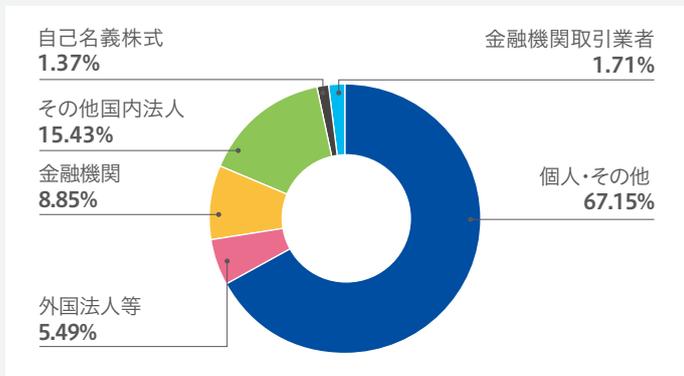
社名	信和株式会社 Shinwa Co.,Ltd.
設立	2014年8月11日(実質的な設立:1979年8月)
資本金	153百万円
主な事業内容	仮設資材、物流機器の製造・販売
従業員数	143名
本社所在地	岐阜県海津市平田町仏師川字村中30番7
営業拠点及び工場等	東京支店/大阪支店/名古屋オフィス/幸手事務所/福岡支店/長崎支店/土倉工場/土倉機材センター/杉戸機材センター/横浜機材センター/関西機材センター/広東日信創富建築新材料有限公司(中国・広東省佛山市)

株式情報 (2024年3月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	55,153,600株
発行済株式の総数	14,103,000株
株主数	15,803名

所有者別分布状況 (2024年3月31日現在)



当社ホームページのご案内



様々な情報をホームページでご覧になれます。

<https://www.shinwa-jp.com>

物流の困りごとをワンストップで解決。汎用物流機器のスペシャルサイト。

<https://www.s-logi.biz>



役員 (2024年6月26日予定)

代表取締役社長	則武 栗夫
専務取締役	平野 真一
取締役	平澤 光良
取締役	鬼頭 和也
社外取締役	芹澤 浩
社外取締役(監査等委員)	伊藤 佐英
社外取締役(監査等委員)	谷口 哲一
社外取締役(監査等委員)	阿知 波知子

大株主 (上位11名・2024年3月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	927,100	6.6
アルインコ株式会社	689,400	4.9
阪和興業株式会社	689,400	4.9
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	237,700	1.7
山田 博	196,400	1.4
BNP PARIBAS FINANCIAL MARKETS	169,700	1.2
RE FUND 107-CLIENT AC	143,400	1.0
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	138,700	0.9
中山通商株式会社	137,900	0.9
株式会社ヤグミ	137,900	0.9
新海 秀治	121,700	0.8

※当社は、自己株式193,484株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

証券コード	3447
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場 名古屋証券取引所 プレミア市場
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	事業年度末日の翌日から3ヶ月以内
基準日	9月30日、3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	100株

株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
公告掲載方法	当社の公告は、電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法によって行います。当社の公告掲載URLは次のとおりであります。 http://ir.shinwa-jp.com/ja/announce.html